



『鹿嶋力』 見つけた

市長エッセー No.70



▲試合後、日本製鉄鹿島の中島監督と

食欲の秋、読書の秋、芸術の秋…、本市は、まさにスポーツの秋真っ盛りといったところでしょうか。

10月4日、日本製鉄鹿島硬式野球部が群馬県太田市代表のSUBARUに延長戦の末4-3で勝利し、5回連続20回目の都市対抗野球本大会出場を決めました。チーム全員の諦めない姿勢が勝利を呼び込んだのだと思います。

さらには、同日、ひたちなか市民球場で行われた秋季関東高校野球茨城県大会決勝で、鹿島学園高等学校野球



▲秋季関東高校野球茨城県大会で初優勝し、10月24日(土)から始まる関東大会に出場する鹿島学園高等学校野球部 (提供：イシヤ写真館)

10月4日、日本製鉄鹿島硬式野球部が群馬県太田市代表のSUBARUに延長戦の末4-3で勝利し、5回連続20回目の都市対抗野球本大会出場を決めました。チーム全員の諦めない姿勢が勝利を呼び込んだのだと思います。

10月4日、日本製鉄鹿島硬式野球部が群馬県太田市代表のSUBARUに延長戦の末4-3で勝利し、5回連続20回目の都市対抗野球本大会出場を決めました。チーム全員の諦めない姿勢が勝利を呼び込んだのだと思います。

さらには、同日、ひたちなか市民球場で行われた秋季関東高校野球茨城県大会決勝で、鹿島学園高等学校野球



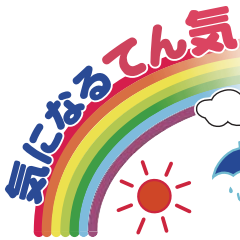
▲試合の流れを引き寄せる活躍をみせた主将の林悠平選手

部が常総学院を相手に延長11回の激闘の末、4-3のサヨナラ勝ちで初優勝、そして関東大会出場を決めるといニュースも飛び込んできました。

「スポーツ先進のまち」を掲げる本市にとって大変喜ばしい出来事であり、「スポーツは人間性を育てる」と考えている私にとっては、人づくりにも良い結果が残せていると思っています。

今年はコロナ禍で、感染症対策の徹底とスポーツを楽しむ環境づくりの両立が課題ではありますが、市民の皆さんにご協力いただきながら実現させてまいります。

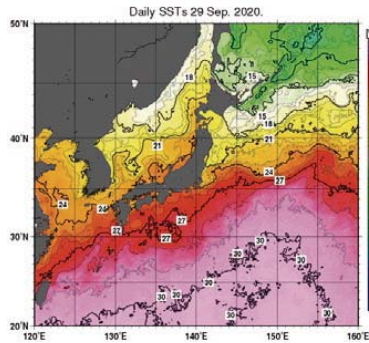
古川博士の気象コラム



古川 武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

台風14号、この原稿の執筆時点では進路がはっきりしていませんが、大事に至らないことを祈ります。

台風とは、熱帯低気圧が発達して、中心付近の最大風速が毎秒17m以上となったものを指します。強さは最大風速によって、強い(33~44m)、非常に強い(44~54m)、猛烈(54m以上)の3階級です。大きさは、風速15m以上の強風域の半径によって、大型は500~800km、超大型は800km以上に分けられています。



▲日本付近の海面水温の図(気象庁)

近年、世界的に台風が強大になっており、その原因は「地球温暖化により海面水温が上昇し、大気中の水蒸気量が増加しているから」と言われています(左図参照)。

台風を巨大な自然のエンジンに例えると、その燃料は水蒸気です。台風の上昇気流で水蒸気が凝結して雲が生まれる際に、^{ばくだい}莫大な熱エネルギーを周囲に放出して暖めるため、空気がさらに軽くなり、気圧が下がって発達につながります。温暖化の原因である二酸化炭素の増加を抑えるためにも、風力発電やソーラー発電など自然エネルギーの利用が望まれます。